

通信小海

内側の難敵

牧師 水草修治



ノーベル平和賞を受賞した米国元副大統領、ゴア氏の『不都合な真実』というDVDを見た。ゴア氏は大学時代に一人の教授から地球温暖化のデータと将来の危機について教えられ、以後ずっとこの問題を追跡してきた。先の教授によれば地球温暖化の兆候はすでに一九五八年から現われていたという。

ゴア氏は温暖化をとどめるために、政治家を志し、上院議員の立場からこの事実を訴えれば議会も政府も動き出すものだと思っていた。ところが政治家たちはどれほど確実なデータを提供しても、動くことはしなかった。彼らはただスポンサーである企業の目先

「今月の御言葉」だれも、二人の主人に仕えることはできません。・・・あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということとはできません。」マタイ六章二十四節

の利益のためにのみ行動するのだった。ところが、地球温暖化の事実が企業に求めるのには、目先不利益な排出ガス規制・環境税などだったからである。石油・軍事企業を基盤とするブッシュ政権は、ゴアの時代に定めた環境保護関連法を反古にしてしまう。それでも、ゴア氏は絶望せず、「政治家も世論には敏感だ。ならば、選挙民つまり世論を動かすのだ」と考えて、千回を超える講演会を開いてきたというのがすごい。今回の映画はその集大成的なものである。

「温暖化防止のためには皆さんが地球に優しい暮らしかたをする必要があります」といった国のキャンペーンは、ある程度ウソが含まれている。なぜなら、日本では、家庭からの炭酸ガス排出量は約一割にすぎないからである。かりに日本の家庭が全部なくなっても炭酸ガスは一割減るだけだ。九割の二酸化炭素を排出しているのは、わずか一六七の

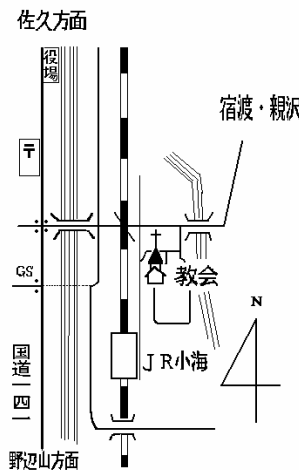
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

千三八四一一二 二六七九二四七七六

千振替00530061683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

*海尻・川上・南相木で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

工場なのである。一六七企業でなく一六七工場だ。もし、これら一六七の工場に効果的な規制をかければ、炭酸ガスは激減する。だが政府はそうしようしない。米国と同じように彼らが政治家たちの支持基盤だからであるう(田中優『地球温暖化』扶桑社、第四章参照)。

環境破壊・地球温暖化の原因はなにか。環境破壊はあらゆる宗教・文化・体制を超えて起こってきた。古代メソポタミアの砂漠化、中世ヨーロッパの森林破壊、近現代のソ連・米国・アフリカ・中国・インドの砂漠化などを調べた学者たちの結論は、今はつきりしている。環境破壊の原因は利益を追求してやまない人間の貪欲である。カネのためとなると、人間は文字通り元も子もなくなっても暴走して来た。敵は人間の内側にある。

主イエスが「あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えることはできません。」とおっしゃったように、富というものは神に成り代わるほどの魔力を持っている。人間の金銭欲は自らの生きる基盤を破壊しても、富を求めるほどきりが無い。これは

他人事だろうか。従業員の給料をぎりぎりしぼって会社の儲けを確保したり、健康を害してまでカネを求めたり、遺産を奪い合ったり兄弟姉妹関係をこわしてしまったり、私たちは気をつけないと目先のカネを得るために、人生でもっと大切なものを犠牲にして、取り返しがつかないことをしてしまっ傾きがあるのだ。

「あなたがたは神にも仕え、富にも仕えることはできません」と主イエスは言われた。まことの神のもとに帰り、私たちの内に潜む貪欲という敵を制しうる者になりたい。

海尻で家庭集會

十一月八日(木)午後七時半、井出博彦さん宅で。 96 2534

南相木でも家庭集會

十一月三十日(金)午後一時半から日向の中島悦子さん宅です。どなたもどうぞ。 78 2047

信州から野宿者支援



日時： 十一月三日(土) 正午から2時半
会場： 松原フィンランド村前広場
費用： 500円(会食代として)

* お米(玄米か白米)と毛布(洗濯済み)
の寄付を会場で受け付けます。

募集品目 焼海苔(味付海苔不可)、梅干、
かつおぶし、味噌

送付先 小海キリスト教会会堂にお持ちく
ださるか、南牧村社協へ。

〒384-1302 南牧村大字海ノ口966
15 南牧村社会福祉協議会気付 山谷農場
携帯(090) 1436 6334
代表 藤田寛

*恐れ入りますが、着払いによる送付は遠慮ください。荷札に「木曜午後送付希望」と、お書きください。

ルターの発見



一五二七年十月三十一日、マルチン・ルターがヴィッテンベルク城教会の門扉に、「九十五か条の論題」をはり出して、公開討論を呼びかけた。課題は、免罪符（めんざいふ）の問題だった。

免罪符というのは、当時、ローマ教会が売り出していたもので、その販売にあたっていた説教者は、「この免罪符を貰うならば、煉獄に落ちて苦しんでいるたましいは天国に移される」と教えていた。地獄の沙汰も金次第というやつである。

ルターは「免罪符は危険である」と主張した。なぜ危険か。免罪符は、そのような安易な方法で神の前における罪が赦されるのだと思いつまらせることによって、人々を滅びに陥れることになるからである。聖なる神の前における人間の罪は、たとえ何億円のお布施をしようとも、いかなる苦行をしようとも、償われつるような手軽なものではない。

ルターは生真面目な修道士だった。「もし修道生活によって功德を積み、天国に行ける者がひとりでもいるとすれば、それは私だっただろう。同じ修道士仲間も、そう証言してくれる。」「もし、あのまま厳しい修道生活を続けていたなら、私は死んでしまっただろう。」と後年、彼は述懐している。しかし、厳しい苦行に励めば励むほど、ルターは自分の内側にあるぬぐいがたい罪の現実に打ちひしがれるほかなかった。

ルターは神に対して恐怖を抱き、憎んだ。彼にとつて神は獄吏のようなイメージで、少しでもルターが怠けたり、卑しい思いを抱いたりすると、地獄の恐怖で彼を脅かすのだった。ルターは神を誤解していた。なぜなら、その時代、教会では神の言葉である聖書がほとんど読まれなくなっていたからである。

ひとりの先輩が心配して、ルターに勧めた。「ルター、神は君のことをそんなに怒ってはおられない。聖書の研究をしてはどうかね。」そこで、ルターはひたすらに聖書の研究、特にローマ書、ガラテヤ書の研究をする。ルターが聖書のうちに見出したのは、戒律の重圧にあえいでいる自分の姿だった。

「なぜなら、律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。」

しかも、聖書は続いて驚くべき救いを語っていた。「しかし、今は律法とは別に、旧約聖書によってあかしされて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であつて、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。すべての人は罪を犯したので、神からの榮譽を受けることができず、ただ神の恵みによる、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

神は罪に打ちひしがれている者をあわれんで、御子イエスを救い主として遣わしてくださった。イエス・キリストは十字架で人間の罪を背負つて地獄の苦しみをなめ尽くされた。ゆえに、ただイエスをわが救い主と信じる者は、神の法廷で義と見なしていただける。無罪放免とされるのである。

ルターだけではない。あなたもまた死後、神の法廷に引き出される。備えはできているだろうか？ ただイエスを信じよ。

それぞれのペースで



子どもの体調がすぐれず世田谷の小児科医から話を聞く機会があった。内容は「成長期とはなんなのか」という話だった。

子どもは生れ落ちて大人に向かって成長していくが、幼児期から小学校の間までは普通、筋肉と骨と内臓諸器官はバランスよく成長していくので比較的安定した状態で生活できる。ところが、中学生から高校生になると、身長が三ヶ月で十センチとか、極端には一ヶ月で七センチも伸びるといふようなこともある。こういふ外側の成長があまりにも急激な場合、心臓や肝臓や腎臓や肺といった内臓諸器官はその成長についていくことができない。

いわば軽自動車に突然、大きなボディが付け替えられたという状態になってしまうのである。すると、その急に大きくなった体を保つ内臓諸器官をつかさどる自律神経系が

バランスを崩す。結果、午前中は血圧が上がらず、頭痛がひどく、吐き気がして、肩こりがひどく、夜は深く眠れない、おなかをこわしやすい、目が痛い、疲れやすいといった症状に悩まされることになる。聞けば中学生・高校生の約十パーセントが、程度の違いはあれ成長期特有の自律神経が調子を崩した状態に陥ってしまうそうである。

どういふタイプの子どもがこういふ症状になりやすいかといえば、血圧が低めで、色彩感覚とかにおいの感覚がすぐれている小柄な子どもが、中学生になって急激に身長が伸びた場合にかかりやすいという話であった。

望ましいのは早期発見・早期治療であるが、それ以前に、小柄で血圧の低い子が急に背が伸びたばあい、小学高学年から高校生の時、無理をさせないように親が意識しておくことが大切であると思う。今の中学生たちは、部活だ、勉強だ、委員会だと、なにかと忙しい。

子どもが他の子と同じように成長してくれたら親は気楽である。わが子が、人と

同じ規格にはいつていると安心するのだ。白菜やレタスでも規格外だと市場に出荷される前にはねられてしまうもの。けれども、農家の人にそうした「はね」をいただいで食べると、これがうんとおいしかったりもするものだ。

人は野菜ではないし、工業製品でもない。地上に六十億の人がいて、ただの一人として同じ人はいない。なんと人類史が始まってから今日までただの一人も同じ人はいない。創造主が、ひとりひとり個性ある尊い存在としてお造りくださったからである。だとすれば、子どもが神から与えられた人生を神に感謝し、それぞれのペースで成長していけるように支えることが親に神様が期待していらつしやることなのである。つらいのは本人だが、親も神に練られるチャンスでもある。

「霊の父は、私たちの益のため、私たちを自分の聖さにあずからせよ」として、懲らしめるのです。すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。」